

### 1. イベント概要

日時：平成30年10月14日～12月16日

会場：信濃川大河津資料館2F企画展示コーナー

内容：写真家山本紉氏が撮影し、水と土の芸術祭2018に展示された信濃川・大河津分水等の写真を展示しました。

主催者：信濃川河川事務所

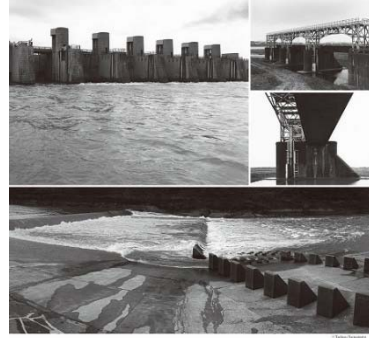
共催：水と土の芸術祭2018実行委員会

協賛：北陸地域づくり協会

信濃川大河津資料館  
開館時間 9:00～18:00  
休館日 日曜日・祝日（除くお盆の期間）  
観覧料 無料  
〒384-0224 新潟県新潟市平野二条地区  
TEL 0256-87-2188  
FAX 0256-87-2189  
E-mail: info@ncr.kyushu.ac.jp

**Divided Water** 山本紉 10.14開  
写真展 12.16閉

信濃川大河津資料館  
〒384-0224 新潟県新潟市平野二条地区  
TEL 0256-87-2188  
FAX 0256-87-2189  
E-mail: info@ncr.kyushu.ac.jp



**展示解説&フィールドガイド**  
平成30年11月3日 13:30～16:00

**水と土の芸術祭とは**  
本館から一歩外へ出、周辺地域で撮影したモノクロ写真を展示する。展示されたモノクロ写真は、撮影者の視点から見た水と土の風景、そしてその風景が持つエネルギーを表現しています。

**山本紉** 1974年（昭和49年）新潟県新潟市生まれ。1996年、東京国立近代美術館にて『水と土の芸術祭』を開催。2018年に『水と土の芸術祭』を開催。



大河津分水等のモノクロ写真に多くの方が魅了されました。

### 2. イベント状況

水と土の芸術祭2018にて展示した11点に、未発表作1点を追加し、全12点の写真を紹介しました。人工の構造物が作り出す独特の水の流れを切り取る山本さんの作品。モノクロ写真だからこそ伝わる堰の威厳や水のうねりなど多くの方々からご覧いただきました。



旧可動堰の作品は、上流、真下、下流の3つのアングルの写真を並べて紹介。同じ堰なのに優しく感じたり猛々しく感じたりする作品でした。



分水路河口部の第二床固は、水の流れが構造物によって変化する様が表現されていました。水流を弱める突起物のパツルビアがサメの歯のようだと言われられる方もいました。



信濃川と阿賀野川をつなぐ山の下の開門の作品では、どちらの川の水位が高いのか、どちらに水が流れているのかと話す方もいらっしゃいました。

#### 来館者の声



撮影地点と越後平野の人工河川を示した地図では、これから川づくりの話で盛りあがる場面もありました。



近くで見ると年季が感じられるからずいぶん昔に撮影した写真だと思ったら、最近撮影した写真と聞いてビックリしました。本来の堰が持っている存在感が際立つ作品だと思います。モノクロだと普段見たり感じたりすることと異なった印象があり、逆に新鮮に感じることができました。  
(新潟市・燕市在住の男性)



モノクロ写真だと構造物の印象が強くなりました。新潟市の山の下の開門の近くに住んでいますが、水位が両岸で2m近く違うことや船のエレベーターのしくみなど全然知らなかったのも、川の流れを見ながらすごくおもしろく感じました。せっかくの機会なので、新潟市の人たちもたくさん来てほしいと思いました。  
(新潟市在住のご家族)